

第4学年 国語科学習指導案

日時：平成 年 月 日（ ）第 校時
場所：4年教室
授業者：
児童数：男 名、女 名

1 単元名・教材名
単元名：読んで考えたことを話し合おう
教材名：ごんぎつね

2 指導の立場

（1）子どもの実態

1学期、物語教材の学習では、第一次において、感想をまとめるのと平行して、作者がどのような工夫を使って話を進めているかということをも最初に捉えさせ、第二次での読み取りの視点として活用するようにしてきた。「白いぼうし」の学習では、色・におい・大きさに関わる表現を大切にしながら、場面の様子や松井さんの気持ちを読み取った。「一つの花」の学習では、「一つ」や「一つだけ」という表現が繰り返されることや、場面ごとの登場人物の行動や会話を通して、登場人物の気持ちにせまるようにしてきた。また、主人公の優しさが中心になっているとか、寂しい話が最後は明るく希望に満ちた終わり方をしているなど、文章全体の構造を捉えて読むことも定着しつつある。「ごんぎつね」の学習では、これらの読み方を継続しつつ、読み取ったことを仲間の意見と比較しながら伝える姿や、仲間の意見を自分の考えに取り入れながら発言できる姿を目指したい。

（2）本時の指導について

【自分の考えをもたせるための指導方法の工夫】

どの子も倒置表現や情景描写に着目し、自分の考えをもてるよう、第1時で、作者の工夫見つけを行い、本時、一人読みに入る前にその足跡を、ノートや掲示でふり返る。また、登場人物の気持ちを心情曲線に表すことを通して、心情の変化を自分なりに捉えさせるようにする。

【伝え合うための指導方法・指導形態の工夫】

本時は、前時までと違い、兵十の気持ちの変化を考える学習となることを徹底する。教師に向かって話すのではなく、仲間に向かって話すことを意識付けるために、机列をコの字型にする。また、話し方カードを活用して話型を示し、自分の意見と仲間の意見とを比べて話す姿や、仲間の意見を自分の考えに取り入れて発言する姿を価値付ける。話し合いで、自分の考えが変わったり深まったりするよさを実感させたい。

【自分の考えを深めていくための指導方法の工夫】

深めの発問を生かすために、発問の直前に、ごんと兵十の気持ちのすれ違いを理解させたい。兵十がごんに倒置表現で話しかける会話を取り上げ、ごんの償いが一方的だったことと、兵十はごんをただのいたずらぎつねとしか思っていないなかったことを押さえる。その後で深めの発問をし、やっと二人の気持ちが通じたが悲しい結末になってしまい、後悔する兵十の気持ちを捉えさせたい。

3 本時の目標

「ごん、おまいだったのか、いつもくりをくれたのは。」や「青いけむりが、まだつつ口から細く出ていました。」に着目することを通して、ごんをぬすつとぎつねとしか思っていない兵十と、ごんの兵十に対する一方的な償いの気持ちに悲劇を生んだことに気づき、兵十が今までのごんの行為を知って、銃で撃ったことを後悔する気持ちを読み取ることができる。

4 本時の展開

過程	過程の目標	主な学習活動	指導・援助 [深めの発問] [評価規準]
つかむ	○前時の学習を振り返り、本時の課題をつかむことができる。	1 前時の学習を振り返る。 ・兵十と加助の会話を聞き、自分のしていることに気付いてもらえないことに憤りを感じているごんの気持ちを思い出す。 ・憤りを感じながらも、本時の6場面でも償いに出かけていくことを確かめる。 2 6場面を音読し、本時の課題をつかむ。 銃でごんを撃ってしまった兵十の気持ちを読み取る。	・学習の足跡の掲示や自分のノートを使って、前時のごんや兵十の様子を思い出す。
ふかめる	○着目する言葉から、兵十の気持ちを想像することができる。 ○ごんが家の中に入ったのを見かけた時の兵十の気持ちを考える。 ○ごんが栗や松茸の贈り主だと知った時の兵十の気持ちを考える。 ・倒置表現により、兵十の驚きの気持ちがより強調されていることに気付く。 ○「青いけむりが、まだつつ口から細く出ていました。」から、ごんを撃ってしまった兵十の気持ちを考える。	3 一人読みをし、兵十の気持ちが分かる言葉を見付け、自分の読みを書く。 4 読み取ったことを交流し、兵十の気持ちの動きを考える。 ・「ぬすみやがったあのごんぎつねめ。」から、魚を盗んだきつねがまたいたずらをしに来たな。 ・「よし。」から、今度こそこらしめてやろう。 ・「かけよってきました。」から、やったしとめたぞ、どうなったかな。 ・「うちの中を見ると」から、何かいたずらをされていないだろうか。 ・「目につきました。」から、くりを持ってきたのはもしやごんなのか。 ・「ごんぎつねめ」が「ごん」に変わった。「ごん、おまいだったのか、いつもくりをくれたのは。」から、神様じゃなかった、ごんが今まで栗や松茸をくれていたのか。 ・どうしてきつねのごんが自分にわざわざ栗を持ってきてくれていたのか。 ・まさかあのぬすつとぎつねがやっていたとは思いませんでした。 ・これまでのおくりものの真相を知って、兵十はとてもびっくりしている。 ・兵十が思いもよらなかったことに混乱し、驚いている様子が、より強く感じられる。 5 ごんを撃ってしまった兵十の気持ちについて考える。 ・ごんがしていたとは気付かずに撃ってしまった。ごめんよ、ごん、許してくれ。 ・知っていれば、鉄砲で撃つなんてことはしなかった。ああ、本当に悪いことをした。 ・いたずらぎつねではなかったのだな。かわいそうなことをしたなあ。でも、もう取り返しがつかない。 ・ごんを銃で撃つてしまって、後悔している気持ちがすごく伝わってくる。	・「読み取りの視点」や、「読み取りの技」を確認する。（倒置表現、情景描写）（ある・なし） ・着目する言葉に線が引けているか、机間指導で見届ける。 ・倒置表現を取り上げ、そうでない表現と比較することで、ごんの行為が一方的で独りよがりだったことと、兵十にとっては、ごんの行為が思いもよらないものであったことをふり返ることで、二人の気持ちのすれ違いに気づき、兵十の後悔や悲劇的な結末への理解を促す。 「火縄銃をばたりと取り落としているけど、兵十はごんをしとめて、うれしいのではないの。」と問い、さらに情景描写「『青いけむり・・・』は、白いけむりではだめなの。」と問うことで、兵十の後悔の気持ちや、兵十に伝わりきらなかったごんの気持ちをつかみ、気持ちのすれ違いが悲しい結末を迎えてしまったことを理解する。
まとめる	○本時のまとめとして、兵十の気持ちを心情曲線に表し、感想を書く。 ○ふり返る。	6 本時のまとめをする。 ・兵十は、きっとすごく後悔しただろう。なぜかという、ごんが何の関係もない自分に栗を持ってきてくれたなど、思いもなかったと思うし、そんなやさしいごんを撃ってしまったからだ。ごんは、これまで兵十のために、一生懸命栗や松茸を持ってきたけれど、その兵十に殺されてしまうなんて、本当にかわいそうだ。兵十がもっと早くごんのしていることに気付いていたらなあ。ごんは、兵十に自分がしていたことだと分かってもらえてよかったけれど、やっと気持ちが通じたのに、取り返しがつかないことになっていたなんて、悲しいな。 7 自己評価をする。 ・まとめたことを発表し合う。教師が評価をする。 ・仲間のどの意見で自分の考えが変わったかや深まったかをふり返る。	・兵十とごんに対する感想を書く。「後悔」「やっと通じた」「取り返しがつかない」などの言葉を入れて書くよう援助する。 ごんを撃ってしまった兵十の、後悔する気持ちと、兵十に撃たれたごんの、悲しみとも喜びともつかない気持ちを書いている。すれ違い、取り返しがつかない結末になってしまった二人に対する感想を書いている。（読）

5 国語科単元指導計画

(1) 単元の目標

- ・場面の移り変わりに注意しながら、登場人物の性格や気持ちの変化、情景などについて、叙述をもとに想像して読むことができる。
＜C－(1)－ウ＞
- ・文章を読んで考えたことを発表し合い、互いの考えの共通点と相違点を考えながら話し合うとともに、一人一人の感じ方の違いに気付くことができる。
＜C－(1)－オ＞
- ・目的に応じて書くとともに、書いた物を発表し合い、書き手の考えの明確さなどについて意見を伝え合うことができる。
＜B－(1)－カ＞

(2) 単元を貫く課題

「ごんぎつね」の感想をもとに続きの話を書くために、様子や気持ちを表す言葉や会話文に着目しながら、場面の様子やごんと兵十の気持ちを読み取ろう。

(3) 単元指導計画 全13時間

時数	目 標	主な学習活動	評価規準
一次 1	感想を発表し合うを通して、学習の見通しをもつことができる。	・全文の範読を聞き、感想を書くとともに作者の工夫を見つける。 ・単元の最後に、続きの話を書くことを知る。	ごんと兵十について初めの感想を書き、作者の工夫を見つけている。(関)
2 3	意味の分からない単語を調べ、理解することができる。新出漢字を練習し使い方をすることで、日常生活で使えるようにする。	・国語辞典を使い、意味の分からない言葉について調べる。 ・新出漢字の使い方を覚え、練習する。	意味の分からない言葉について、国語辞典で調べている。(関)
4 5	初発の感想をもとに学習課題となる内容や学習の進め方についての見通しをもち、学習への意欲をもつことができる。	・初発の感想を発表し合い、単元を貫く課題を話し合う。 ・物語の状況設定を1場面から知る。 ・貫く課題をもとにして、場面ごとの課題を話し合う。	初発の感想を発表したり、自分が学習したいことについて発表したりしている。(関)
二次 6	兵十を観察したり、兵十の捕った魚を逃がしたりするごんの様子を話し合うことを通して、ごんが兵十に相手にしてほしいと思っていることに気づき、ごんがひとりぼっちで寂しい気持ちであることを読み取ることができる。	・巣穴の中でひとりぼっちでいるごんの様子を読み取る。 ・兵十を観察するごんの様子を読み取る。 ・兵十が捕った魚を逃がしてしまうごんの気持ちを読み取る。 ・まとめる。(感想を書く。)	ひとりぼっちでいることの寂しさを、いたずらをするので村人にかまって欲しいと思っているごんの気持ちを読み取っている。(読)
7	「ちがいない」「だろう」という言葉に着目することを通して、自分が兵十の母親を死なせてしまったと考えたごんの気持ちに気づき、兵十にしたいたずらを後悔している心情を読み取ることができる。	・兵十のうちや、村の墓地で、村人や兵十の様子を見ているごんの気持ちを読み取る。 ・葬式を終えた後、自分のしたことを振り返るごんの気持ちを読み取る。 ・まとめる。(感想を書く。)	自分が兵十の母親を死なせてしまったと考え、自分のいたずらを反省するごんの気持ちを読み取っている。(読)

8	「おれと同じ、ひとりぼっちの兵十か。」「まず一つ」「次の日も、その次の日も」という言葉に着目することを通して、兵十の境遇に共感し、自分の罪の重さを感じて、うなぎの償いをしたいと思うごんの気持ちに気づき、兵十へ思いを寄せていくごんの気持ちを読み取ることができる。	・兵十のうちへ鰯を投げ入れた時のごんの気持ちを読み取る。 ・次の日、兵十の顔を見た時のごんの気持ちを読み取る。 ・鰯だけではなく、栗や松茸を持っていくごんの気持ちを読み取る。 ・まとめる。(感想を書く。)	自分と同じような境遇の兵十に何か償いをしたいというごんの気持ちと、自分の行為とその結果から償いの仕方について考えているごんの気持ちを読み取っている。(読)
9	会話文に着目することを通して、兵十が毎日届けられる贈り物を気味悪がっていることに気づき、不安に思っている兵十の気持ちを読み取ることができる。	・加助に自分の周りで起こっている出来事を話す兵十の気持ちを読み取る。 ・兵十と加助の後ろを付いていくごんの気持ちを読み取る。 ・まとめる。(感想を書く。)	自分の周りで毎日起きている出来事を不思議に思っている兵十の気持ちを読み取っている。(読)
10	「つまらない」「引き合わない」という言葉に着目することを通して、ごんが、隠れてしていることだと知って欲しいと思っていることに気づき、神様の仕業と言われて憤りを感じているごんの心情を読み取ることができる。	・二人の会話を聞いている時のごんの気持ちを読み取る。 ・二人が神様の仕業だと考えていることに對するごんの気持ちを読み取る。 ・まとめる。(感想を書く。)	二人の会話を聞き、自分のしていることに気付いてもらえないことに憤りを感じているごんの気持ちを読み取っている。(読)
11 本時	「ごん、おまいだったのか、いつもくりをくれたのは。」や「青いけむりが、まだつつ口から細く出ていました。」に着目することを通して、ごんをぬすっとぎつねとしか思っていない兵十と、ごんの兵十に対する一方的な償いの気持ちが悲劇を生んだことに気づき、兵十が今までのごんの行為を知って、銃で撃ったことを後悔する気持ちを読み取ることができる。	・ごんが家の中に入ったのを見かけた時の兵十の気持ちを読み取る。 ・ごんが栗や松茸の贈り主だと知った時の兵十の気持ちを読み取る。 ・ごんを銃で撃ってしまった兵十の後悔の気持ちを読み取る。 ・まとめる。(感想を書く。)	兵十の気持ちの変化を兵十の様子や会話文や情景、前の場面とつなげて読み取っている。(読)
三次 12 13	読んで考えたことを基にして、「6」の続き話を書き、文章を読み合って書き方のよかったところを述べ合うことができる。	・「6」の後で、兵十がごんのことを加助に話すとしたらどのような会話になるか想像して書く。 ・友達が書いたものを読み合い、書き方のよかったところを話し合う。	自分が書いた続き話を友達と交流し、よさを伝え合っている。(書)